

18禁コミックにおける遺伝子異常調査

*Dr. キッチュ

18禁コミックの世界に遺伝子異常が起こっている。従来、人間の性に関する興味の対象は、慣習の打破、征服欲、男らしさ・女らしさの追求であったのに対し、ここ数年でその欲望対象が変化してきた。つまり、よりアブノーマルな性に対する嗜好である。しかも、そのアブノーマル性が、観念や精神から物理的な形態へ比重がシフトしている。

そこで今回、その原因がコミック世界の遺伝子異常であるとみなし、調査を行ったので報告する。

1. 18禁コミックの遺伝子異常とは

コミックの遺伝子異常とは、現実世界の基準に準じた、性愛の形の異常と定義する。異常が語弊あるとすれば、「まれな形態」と読み替えても良い。

この異常は、

- 1) 形態の変化(巨乳など)
- 2) タブーを破る(近親者との姦通)
- 3) 器具や暴力に訴える(SM等)
- 4) 性器の異常(ふたなり等)
- 5) 人体の改造(アンドロイド化、機械化)
- 6) 人間以外への変貌(エルフ化、獣化)

というカテゴリーに分類される。

2. キャラクターの調査

ここで、実際のキャラクターの異常比率を把握する為に、マンガ雑誌の調査を行った。方法は、登場人物とその性的嗜好を分類に従ってカウントするものである。性的行為をしない人物はノーマルとした。調査は1996年6月号の各雑誌を購入して実施した。購入書店はマンガ専門店や一般書店、コンビニと多岐に渡って実施した。結果を表1に示す。

この結果から、ノーマルな性愛がやはり多いが、SMとエルフ化がかなり進行していることが分かる。

「スカトロもの」はSMものに含めてある。

あきらかに遺伝的異常と思われる「ふたなり」も、ほとんど総ての雑誌に見受けられた。

「巨乳」の得点が低い、今日のコミック界では、巨乳はほとんどあたりまえの現象であり、ここで区別した巨乳とは、中でも明らかに異常な大きさ(へそまで垂れる等)のものを分類している。

比較的例が少なかったのは、近親相関ものと獣姦ものである。これらはタブーに挑戦しているものであり、どうしても描き手のテンションが高くなる為に例が少ないものと考えられる。

この結果から、遺伝子異常率を求めた。結果を表2に示す。表1から、明らかに遺伝子に異常があるものは、ふたなりと獣化であるので、これを遺伝子異常として計算している。(楽観水準)

表1 18禁コミックのキャラクター調査結果

文献	発行	ノーマル	巨乳	近親姦	SM	ふたなり	改造体	エルフ化	獣化
Beat	1996 7	13			6	1	2		
ゆみちゃん No.12	1996 6	10		2	6	1		3	1
Natural Hi Vol.11	1996 6	17			3	1	1		
ドルフィン Jr	1996 6	21			3				
フラミンゴ	1996 7	5		2	9		4	1	
ミカエル	1996 6	11	4	4	4	1	1		
Beat	1996 6	11			4	1		2	
ライズ	1996 6	9	1	2	1	1	1	8	1
P S	1996 6	7	1	2	10	1	1		
ドルフィン	1996 6	11		4	4	1	3	2	
ZIP	1996 6	15			4	6	3	2	
CANDYTIME	1996 6	22			2			8	
パピポ外伝	1996 6	21			8	2		3	1
P S	1996 5	14	1	2	3	1		2	
ZIP	1996 5	12			4		1	4	

また、巨乳も形態異常であり、遺伝が関与するとして、これを含む計算も行った。(悲観水準) 人体改造やエルフ等、人工的なものや種が異なるものは計算から除外している。

*超越科学研究所・ワークスキッチュ
マッドサイエンス学会正会員
Laboratory of Hyper-Science
Tokyo JAPAN

表2 遺伝子異常率の算出

分類結果	個数	単位
正常	199	
形態変化(巨乳等)	7	
異常性愛	89	
遺伝子異常(ふたなり等)	17	
人間以外	55	
人間と認められるもの	312	
人間ではないもの	55	
DNA異常率(楽観水準)	5.45	[%]
DNA異常率(悲観水準)	7.69	[%]
通常世界の異常(1万人に1人)	0.01	[%]
DNA異常倍率	545	倍
	~	
	769	倍

表2から、コミック界の遺伝子異常は、キャラクターの約5~7%にも達している事が判明した。通常世界の遺伝子異常は0.01%(100ppm)程度と考えられるので、これに比べて500倍以上の比率である。

3. 遺伝子異常の発生メカニズム

マンガ世界は実在するものではないが、描き手や読み手の心の中に存在する世界である。つまり、その世界は我々のアイデンティティと同じメディア(脳やアストラル体)を使う事において、実在世界と同じレベルの心理現象である。そのマンガ世界には、現実世界の情報が取り入れられ、かつ現実世界にさまざまな影響(例:コスプレブーム)を与えており、人間を介して現実世界と相互作用を行うととらえても良い。

このマンガ世界は、一般的には、出版という形式で通常世界に紹介される。つまり、描き手と読み手の間に、出版社・印刷所・製本所・流通業者・書店という機関が介在する。が、その内容に最も影響を与えるステップは、出版社とその担当編集者であろう。この場合、描き手の異常な発想は、編集者という一種の免疫装置にかけられて評価され、読み手には安全なレベルのもののみ供給される事になる。(図1)

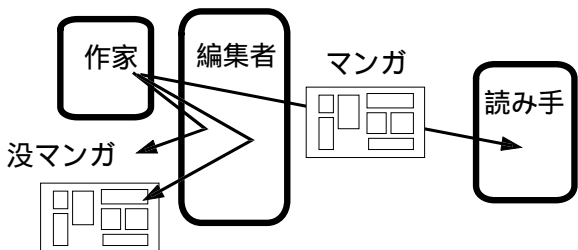


図1 商業出版のメカニズム

描き手と読み手がクロスオーバーすると、図2のようなループ関係が成立する。つまり、投入するモチーフが遺伝子的作用を行い、キャラクターが進化する。

つまり、手塚治虫氏のマンガをまねて石ノ森氏や藤子不二夫氏らマンガを描き、それらを手塚氏が参考にしてマンガを描く・・・といった、互いに刺激しあってマンガを描いていくことにより、世界的に突出したレベルにある、日本のマンガ文化を築いたメカニズムである。

ところが、今日のように、同人誌文化が発達すると、多数の作家兼読み手がこのプロセスを加速するため、この進化円環がさらに加速してしまう。

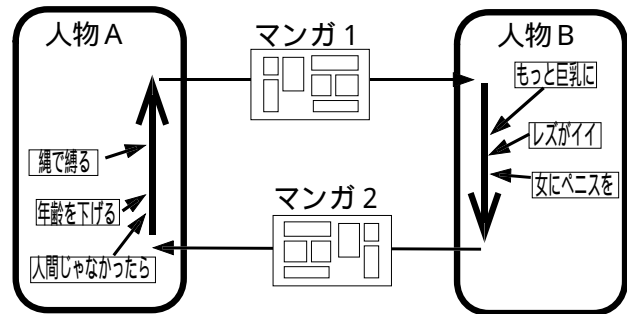


図2 モチーフの遺伝子作用による進化

そこに、稚拙な表現や、奇をてらった表現を混入すると、そこに何等かの異常作用があれば、キャラクターの遺伝情報に変化が発生し、アブノーマルなキャラクターが発生・進化する。閉鎖状態の無限再生産・・・これは、CHAOSを発生させるメカニズムである。現実世界における、近親婚の進行した世界ということになる。

一方、この現象が放射能等の外因によるものであるとすると、コミック世界における放射能レベルは現実世界の500倍以上という事になる。まるでチェルノブイリの近辺と同じ汚染レベルという訳だ。

4. まとめ

コミック世界のキャラクター異常率を調査し、現実世界の500倍以上の異常率を見出した。発生メカニズムは、CHAOSとおなじ無限再生産機構が関与していることも判明した。

よく、SF世界が、未来の予言になっているという話を聞く。ジュール・ベルヌやウエルズ等がそうであるらしい。これと同様に、コミックも、未来の人間世界の予言的側面を持っていたらどうであろうか。50年後の人類は、ありとあらゆるフリークが存在する、なかなか面白い世界であるかもしれない。

参考文献

表1を参照の事